

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自ら気づく人を育てる」を目標に掲げ、「茨西 PRIDE」のもと生徒の志をカタチにするため、家庭と地域を巻き込んだ教育活動を展開することで茨西ブランドを確立する。

1. 確かな学力を基礎に、志高い進路目標を実現する生徒を育成し、中堅大学に進学実績を持つ学校をめざす。
2. 英語教育推進事業をもとに、引き続き指導法を研究して生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成し国際社会に通用する人材を育てる。
3. 生徒会活動・部活動等の充実を図り、規律規範意識を高め、健康で心豊かな人間を育成する。
4. 学校と家庭・地域をつなぐ活動を通して、生徒自身の誇りと母校愛を醸成するとともに、社会を創っていく態度を涵養する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。

ア 生徒による授業評価と保護者や中学生による授業公開のアンケート結果を効果的に活用するとともに、教員相互の授業見学を組織的に取り組み、ICTを活用した授業の目的を明確し、機器をいかに使いこなし教育効果をあげるかについても研究をすすめる。

※生徒向け学校教育自己診断の授業でのコンピュータ等の活用(平成25年度69.6%)を、平成28年度には85%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断の他の先生が授業を見学に来る(平成25年度63.2%)を、平成28年度には75%以上にする。

(2) 英語教育推進事業をもとに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

※海外修学旅行を継続して行う。

※英語を活用できる場面が増えたと実感できるよう、語学研修等の体験機会を増やす。

2 志高い進路目標を実現する生徒の育成

(1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。

ア 進路フィールドワークや高大連携によるキャリアサポートの更なる充実を図る。

※教育産業の講習、勉強合宿、キャリア教育連携授業、進学講習会等の年間参加者数(平成25年度 300名)を、平成28年度には500名をめざす。

※進路実現率(進路実績/3年4月時点の進路希望)90%以上(平成24年度 89.3%、平成25年度 87.9%)

3 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 基本的生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。

ア 挨拶ができる、遅刻をしない、通学マナーの向上など基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を継続して行う。

※生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関するより強い肯定率(平成25年度11%)を、平成28年度には20%以上にする。

(2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。

※学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」の肯定率(平成25年度生徒74.4%、保護者73.1%)を、平成28年度には85%以上にする。

(3) 耐震工事に伴う校舎の使用制限に対して、生徒が安全で安心できる学習環境の維持に努める。

4 学校・家庭・地域の連携強化

(1) 「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」との連携を継続して行う。

ア 幼保小中等への生徒による出前授業の実施や地域行事等への参加協力者数や回数を増加させる。

イ 卒業生・保護者・地域の人材をボランティアとして、教育活動や部活動に活用できるような教育コミュニティをつくる。

(2) 学校と地域をつなぐ望ましいPTA活動を展開する。

ア 公開授業や体育祭・文化祭等の学校行事への参加を積極的に支援し、学校・家庭・地域の交流を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、教員は「茨西スタンダード」の確立とICTを活用した授業に取り組んだ。授業アンケートでは、授業内容に興味関心をもつことができた生徒は78.8%で、昨年よりupした。しかし、自己診断で授業が分かり易く楽しいとの肯定率は、48.0%(1年38.5%,2年45.5%,3年63.2%)で、1年生の理解度に課題がある。そこで教員は、ICTを活用した授業を1年生で多く取り入れている(1年73.1%,2年41.3%,3年47.1%)。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導方針に共感できる保護者は76.8%、生徒54.8%とズレがある。本年度は体育館・教室棟の耐震工事のため安全確保を重視し、立ち入り禁止区域や南門の閉鎖など生徒にとってストレスの溜まり易い学習環境にあったことが一因であると思われる。次年度は、遅刻指導に入室カードを導入し、授業を大切にすることを育てる。 ・工事の影響で仮の進路指導室となったり、夏期講習を外部施設で実施するなど、不便な状況にも係らず、進路指導に関する肯定率68.8%とほとんど変化がなかった。校内で実施するより、学習環境が変わって反ってやる気になったとの声もあった。どのような状況であって、如何に進路実現に向けて意欲を持たせるかが、課題である。 ・昨年に引き続き、高大連携キャリア教育授業を実施した。1,2年生で604名の参加者があり、大学の先にある進路を考える機会になった。また、保護者向けの自己診断で進路選択のための大学との連携に対する肯定率が75.5%であった。進路指導≠キャリア教育の概念を醸成できるようカリキュラムを工夫する必要がある。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導や進路指導について生徒・保護者に理解してもらえるよう努めていると 	<p>○第1回(5月23日開催)</p> <p>Q1 進路実現率90%以上、という評価指標は厳しくないのか。 A1 これまでも90%近い実現率から考えれば、妥当な範囲と考えている。</p> <p>Q2 学力をつけることは勿論大切であるが、動機づけやチャレンジを進めることも大切なことと考える。⇔「やってみる!触れてみる!」 ・大学との連携等、「やってみる!触れてみる!」の取組みがされていても、保護者への連絡が後回しになっている現状があるように思う。</p> <p>A2 学校からの連絡メールやメールマガジンの取組みを説明</p> <p>Q3 近々発送されると思う出欠状況の連絡などに、再度連絡メール等の登録方法の文書を同封してほしい</p> <p>A3 了承 ・地域とも良く連携がとれていて、年々、西高の評価は高くなってきている。</p> <p>Q4 公開授業を充実させる方法をどうしていくのか。 A4 公開週間の設定を6月にもしているし、2学期にも考えていく。</p> <p>Q5 タブレット端末を活用した授業はどうなっているか。 A5 使える英語の事業で購入できたタブレット端末は、英語の授業でのみの活用だが、成果は出てきている。今後は、他教科での活用を考えていきたい。</p> <p>○第2回(10月17日開催)</p> <p>Q1 大規模改修工事(耐震工事)の関係で、予定していた行事等で変更になったものがあるのか。 A1 8月下旬の授業に9月の文化祭</p> <p>Q2 英検の説明はあったが、漢検受検者の状況も知りたい。 A2 21名(⇔英検:62名)</p> <p>Q3 グラム修学旅行の最大の目的は何か。 A3 2年生全員が現地校との交流を通して、英語によるコミュニケーション能力を試し、今後の学習意欲が向上することへの期待</p>

<p>考えている教員は、94.4%であるが、学校教育目標の実現に向けて協働して取り組んでいると考える教員は 52.9%である。自己評価は高くても、学年・分掌、学校として協働して取り組む職場環境の醸成が急務である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭への意思疎通をきめ細かく行っていると考えている保護者は、88.4%であり、授業参観や行事に参加する機会を設けていると考えているのは、78.6%である。しかし、実際に参加したのは、57.4%である。学校教育活動に対する保護者の理解は高いものの、参加となると難しいようである。PTA 活動の更なる充実が急務である。 本校に進学して良かったと言う実感は、生徒 80.7%, 保護者 89.1%, 教員 94.4% (生徒と触れ合う中で) である。生徒と教員の思いが一致するよう、生徒指導・教科指導に更なる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の重要性が増していることは実感するが、環境の変化によるメンタル面への配慮も必要かもしれない。 「茨西 PRIDE バッジ」の取組みは、ユニークで生徒のやる気を刺激して自信につながっている、と感じる。 遅刻指導対象者が現在まで「0 (ゼロ)」であることは、先生方の努力と評価 ○ 平成 26 年度学校教育自己診断項目について これまでのものと比べて随分と精査されていると感じる。 昨年度の回収率が低かったことに鑑み、手法は同じだが質問項目を精査することによって回収率を上げようとしているのは理解できる。 事故や事件に対して・・・という質問項目について、「事件」を「不測の事態」という表現に修正することとした。 今後も回収状況の見ながら、改善していく部分はある。 ○ 平成 27 年度使用教科用図書決定について 生徒の状況を良く理解し、実際に教える先生方が選んだ教科書であると同時に、検定教科書であることを協議会としては尊重し、特に異論はない。 ○ 第 3 回 (2 月 6 日開催) 校長より、学校教育自己診断の結果等を基にして作成した H27 経営計画(案)及び H26 学校評価(案)についての説明があった。 学校評価について△が多いのではないかと。多少の数値のズレは○の評価でもいいのではないかと。 Q1 学校教育自己診断の結果をどのようにフィードバックしているのか。 A1 現在は、ホームページでの結果掲載のみ。 折角保護者が回答しても生徒が提出しないままになっていることもあるらしいので、保護者版の回収率を上げる対策を考えていく必要がある。 通学安全指導も大切だが、マナー教育だけでは限界もあるのではないかと。 自転車の整備についても情報提供はされているか。 項目が多岐にわたっていて限られた時間では論議を深めるのが難しい。 ○保護者からの意見調査の現状について 現在のところ学校協議会に寄せられた意見はなし。 ○その他 Q1 携帯電話 (スマホ) に関する情報モラル教育はされているか。 A1 今年度は 1 年と 3 年に docomo 携帯教室を開催した。内容が浸透するためには、まだまだ検討をしていかなければならない。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。</p> <p>(2) 英語教育推進事業を基に、英語によるコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・自己申告票の授業力の目標設定で、強化したい項目を明記させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートで特段に高い結果が出た授業者の授業を積極的に公開し、授業力向上に取り組む。 教員相互の授業見学を年間 1 回以上実施し、見学時には共通の授業観察シートを使用する。また、「茨西スタンダード」の確立に向け授業者との意見交換を行う。 ICT を活用した授業 (プロジェクター、ビデオ、パワーポイント等) の実施計画を職員会議等で周知し授業見学後、情報交換の機会を設ける。 <p>(2)</p> <p>ア・授業や HR で、海外修学旅行先の情報 (英文) 収集に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用した更なる授業実践に取り組む。 	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートで、授業内容に興味関心をもつことができた項目の肯定率 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の「他の先生が授業を見学に来る」を 65%以上 (平成 25 年度 63.2%) 生徒向け学校教育自己診断の授業でのコンピュータ等の活用を 75%以上 (平成 25 年度 69.6%) <p>(2)</p> <p>ア・英検受験者数 120 名以上 (平成 25 年度 73 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 38 期生の修学旅行満足度 90%以上 タブレット端末を活用 40 時間以上 	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケート 78.8%であった。次年度は、学校平均 3.1 以上 (H26, 3.07) とする。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業を見学に来る」を 62.3%以上(△) 授業でのコンピュータ等の活用 54.7% であった。次年度は、特に ICT を活用した授業公開を定期的実施する。(△) <p>(2) ア・英検受験者数 96 名(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 修学旅行満足度 86.2% (△) 2 年生に英語を話す楽しさ、英語力を試すなどの意識づけしっかりと行う。 タブレット端末を活用 42 時間(○)

2 志高い進路目標を実現	<p>(1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。</p>	<p>ア 生徒の進路意識を向上させるため1、2年でフィールドワーク、分野別進路説明会、進路ガイダンス等の取組を継続して行う。</p> <p>イ・大学でのキャリア教育プログラムへ参加させる。</p> <p>ウ 教育産業の講習、勉強合宿、校内での進学講習等の取組を継続して行う。</p> <p>エ 学年ごとの成績、進路希望等のデータ蓄積を更に進め、学力実態調査結果をもとに進路実現に取り組む。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する項目の肯定率 10%up(平成25年度平均70%)</p> <p>イ 延べ参加生徒40名以上</p> <p>ウ 延べ参加生徒350名以上</p> <p>エ 進路実現率(進路実績/3年4月時点の進路希望)90%以上</p>	<p>ア 進路指導に関する項目の肯定率68.8%であった。大学でのキャリア教育に参加した生徒が、将来のキャリア形成を考えられるよう更なる支援に努める。(△)</p> <p>イ 延べ参加生徒604名組織的な取り組みの継続が課題である。(◎)</p> <p>ウ 364名(◎)</p> <p>エ 進路実現率90%(○)</p> <p>4月時点の進路希望から進路先を変更する生徒に対して、保護者とのきめ細やかな連携が必要である。</p>
3 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 基本的生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。</p> <p>(2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>(3) 耐震工事に伴う校舎の使用制限に対して、生徒が安全で安心できる学習環境の維持に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 首席を生活指導部長に任命し、学年主任との連携を強化することで、基本的生活習慣の確立と規範意識の更なる醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を継続して行う。 ・遅刻者減少のために段階的指導を継続して行う。 ・関係機関と協力のした、交通安全指導を継続して行う。 <p>(2)</p> <p>ア 「茨西 PRIDE バッジ」の授与による、生徒表彰を継続して行う。</p> <p>イ 人権ホームルーム等を通して、個々の生徒が自尊感情を高めるとともに、他者を思いやる気持ちを育む。</p> <p>ウ 生徒支援カードを活用し、特性のある生徒の支援を行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア・耐震工事の実施に伴う、学校環境の安全確保に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関する項目のより強い肯定率 15%以上(平成25年度11%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻指導者をゼロにする(平成25年度9人) ・PTA 実行委員会、学校協議会、地域交流協議会等での肯定的意見 <p>(2)</p> <p>ア 5名程度をめぐりに授与</p> <p>イ 人権学習に対する肯定率75%以上</p> <p>(3)</p> <p>ア・学習環境に対する苦情件数3件以内</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒指導に関する項目のより強い肯定率11.2%で変化がなかったが学習環境に制限があった中では、まずまずである。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻指導者2名(◎) <p>(2)</p> <p>ア 9名と特別賞12名自尊感情が高まった。(◎)</p> <p>イ 肯定率87.1%(◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア 0件(◎)</p>
4 学校・家庭・地域の連携強化	<p>(1) 「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」との連携を継続して行う。</p> <p>(2) 学校と地域をつなぐ望ましい PTA 活動を展開する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「発達と保育」の子育てネットワークとの連携授業を継続して行う。</p> <p>イ 「地域交流協議会」の内規を定め、学校行事や部活動との連携を通して地域の人材を活用する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・メルマガ、学校ホームページ、地域の広報誌などを活用し学校教育活動の情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「IBANISHI NEWS」を自治会等の広報を通じて配布する。 <p>イ・PTA 便りを活用し、各委員会の取組を紹介するとともにPTA 協議会の情報も周知する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・連携授業の参加者50名以上</p> <p>イ・延べ支援日数20日以上</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 実行委員会、学校協議会、地域交流協議会等での肯定的意見 	<p>(1)</p> <p>ア 48名(△)</p> <p>イ 16日(△)</p> <p>ともに工事や行事予定に左右されるので、参加者の意見を指標とする。</p> <p>(2)</p> <p>情報発信に対する肯定的意見は、88.4%と高い。(○)</p> <p>参加率は57.4%である。(△)</p> <p>保護者が参加しやすい行事を企画する必要がある。</p>